進捗報告書（実行団体）

- 提　出　日　：　2022 年 10 月 17 日
- 事　業　名　：　障がい児等の体験格差解消事業
- 資金分配団体　：　公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
- 実 行 団 体　：　NPO 法人 海の達人

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
１．障がい児や児童養護施設等の子供が、水辺の自然体験に参加できる状態となる。	①水辺の自然体験に参加した対象となる子供の数 ②水辺の自然体験を見学した対象となる子供の数 ③水辺の自然体験に参加・見学した対象となる子供の満足度 ④水辺の自然体験に協力したサポーターの数	①地域全体で 60 人（初期値から 6 倍） ②地域全体で 30 人（初期値から 3 倍） ③満足度調査（エンドライン調査を行いベースラインと比較する） ④地域全体で 90 人（初期値から 3 倍）	2023 年 2 月	①地域全体で 31 人 ② 地域全体で 13 人 セイラビリティの活動の見学等を含む ③満足度調査 BG アンケートのため現在集計中。 ③ 地域全体で 69 人	3

２．障がい児の保護者が、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①水辺の自然体験を見学した保護者の数 ②水辺の自然体験を見学した保護者の満足度	①地域全体で 60 人（初期値から 3 倍） ②満足度調査（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2023 年 2 月	① 地域全体で 10 人 セイラビリティ活動の見学。 ②満足度調査 保護者へのインタビューにより調査している。保護者の声として「子供の活動を見学していてこのような活動を子供にさせることができてよかった」という声が大半であり、また障がい者施設の方からは「見ていて子供の表情が明るくなるのが分かり、継続して活動に参加させたい」などの声があり、活動参加に対する満足度が高いことが伺える。	3
３．障がい児支援施設や児童養護施設等のスタッフが、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①水辺の自然体験を見学したスタッフの数 ②水辺の自然体験を見学したスタッフの満足度	①地域全体で 60 人（初期値から 3 倍） ②満足度調査（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2023 年 2 月	① 地域全体で 23 人 見学ではなく協力者(体験者)となった。 ・AJU 5 人 ・三重大学　10 人 ・セイラビリティ伊勢　6 人 ・セイラビリティ津　2 人 ② 満足度調査 インタビュー形式で実施。 協力いただいた団体や参加していただいた団体からは「バリアフリーまつりの集客がすごい」「障がい者に対するボランティア活動は海の達人のこの活動だけなので、これてうれしい」、「障害をもつ方からイベントに参加できる機会を提供していただいたことがありがたいと言われた」などの声をいただいている。 また、バリアフリーまつりのスタッフからは「障害を	2

				持つ方とのかかわりが持ててこのような活動に参加できてよかった」という声があった。 協力団体や参加団体、また事業スタッフからの声から、満足度は高いと判断できる。	
４．学校や団体等が、水辺の自然体験に連携・協力・支援する状態となる。	①連携・協力・支援する学校・団体等の数 ②水辺の自然体験推進団体以外で連携・協力・支援する学校・団体等の数 ③水辺の自然体験を見学した学校・団体等の数	①地域全体で40事業者（初期値の２倍） ②地域全体で20事業者（初期値の２倍） ③地域全体で20事業者（初期値の２倍）	2023 年 2 月	① 地域全体で20事業者 ・バリフリまつりの協力団体名 ・マリーナ河芸 ・㈱ダイイチ ・四日市ヨットクラブ(YYC) ・ヤマハ ・海上保安庁 ・中部小型船安全協会ほか ② 地域全体で事業者 20事業者 ・㈱第一楽器 ・NPO 音の和 ・㈱セリオ ・津市社会福祉協議会 ・三重県ほか ③ 地域全体で0事業者 予定の特別支援学校は３校を予定していたが、コロナのためキャンセルとなっている。コロナも３年目を迎えているが、夏場のコロナピーク時が活動時期と重なったため、キャンセルとなってしまった。	2

5. 新型コロナウィルス感染予防対策として、活動の参加者を減らし、実施回数を増やす。密にならない活動場所の設置、機材の追加。	①体験会の実施回数	①年間 20 回	2023 年 2 月	① 2022 年度 10 回 2021 年度 10 回 2020 年度 8 回 ・障がい者はコロナで重度になるということもあり、活動回数は予定まで伸びなかった。 ・また、三重県、津市、各団体からコロナの状況により活動を自粛するよう依頼があったため、計画どおりの活動ができなかった。	3

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし ☐短期アウトカムの内容 ☐短期アウトカムの表現 ☐短期アウトカムの指標 ☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告
・2022 年度から「自然環境リテラシー学」を開設する三重大学 生物資源学部(坂本竜彦担当教授)と連携し、同学を学ぶ学生を海の達人に派遣していただき、休眠預金事業や子供の自然体験学習にスタッフとして参加していただいている。海の達人では、対象となる学生に対し研修の場を設け、危機管理や安全管理等についての指導も行った。 ・高田幼稚園 園長、教員が 5 回ほど来場していたが、コロナの拡大で園児を連れて来場できなかったことを残念がっていた。 ・バリアフリーまつりのアンケートからは、満員でヨット等に乗船できなかった苦情もあるが、ほとんどがとても良い事業なので、続けていただきたいというものが、障がい者だけでなく一般の方からも寄せられていた。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☐自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） バリアフリーまつりではプレスリリーズを行い、地元ケーブルテレビや新聞にも掲載いただいた。 ※取材ケーブルテレビや新聞名を記載 ・2022 年 10 月 3 日(月)　コミュニティチャンネル　津放送局エリア　じもトビ「第 15 回海のバリアフリーまつり」 ・2022 年　9 月 22 日(木)　中部経済新聞 三重版「バリアフリーまつり」告知記事 ・2022 年 10 月 2 日(日)　中日新聞 広域三重版「バリアフリーまつり」記事 またセイラビリティ活動の紹介として三重県から依頼あり、車椅子 YouTuber(渋谷真子様)の方にハンザを体験いただいた。 **大野木理事長、阪本事務局長が渋谷さんに指導している** YouTube　　https://www.youtube.com/watch?v=wxWjf65eY4M 2.広報制作物等 体験会実施の案内とともに、セイラビリティ活動の紹介。

バリアフリーまつりチラシ。制作部数　8,000 部　配布先　特別支援学校、㈱ダイイチ福祉事業部の方がケアマネ等に配布。協力先に配布。㈱第一楽器の店舗に設置。

制作した海のバリアフリーまつりのチラシ

3.報告書等

バリアフリーまつり報告書

4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

①2022 年 6 月 11 日(土)、12 日(日)　三重大学 自然環境リテラシー研修 「休眠預金事業の説明と協力の依頼」

添付資料

三重大学　学生研修

三重大学　学生カヌー実習

海のバリアフリーまつり　ボート遊覧

同　ヨット・カヌー